

**日本・シンガポール・シンポジウムでの
大西政務官閉会挨拶**
(令和8年9月11日、於：シンガポール)

- ズルカルナイン外務・内務担当国務大臣、両共同議長、御列席の皆様、こんにちは。外務大臣政務官の大西洋平です。
- 外務省を代表し、日本国際問題研究所、シンガポール国際問題研究所をはじめ、第19回「日本・シンガポール・シンポジウム」の開催に御尽力いただいた日・シンガポール両国の関係者の皆様に深く御礼申し上げます。
- 私からは、本年のシンポジウムの閉会にあたり、2点申し上げます。
- 1点目は、基本的な原則や価値を共有する両国が多層的、多角的に様々なテーマについて議論することには、国際社会を取り巻く安全保障環境の変化が加速する中、大きな意義があるということです。
- 「ポスト冷戦期」において、多くの国々は、自由で開かれた国際秩序の拡大、グローバル化の進展、そして国家間の相互依存の深化を特徴とする国際潮流により、繁栄と安定を享受してきました。

- しかし、そのような「ポスト冷戦期」と言われた時代は終焉を迎えたと言われています。国際社会が大きく変化する中で、基本的な原則や価値を共有する日本とシンガポールは何ができるのか。本日のシンポジウムでは、その問に対し、バックグラウンドが異なる登壇者に幅広い分野において議論を行っていただきました。
- 現在の国際情勢においては、各国と戦略的な協調を図る取組の重要性が一層増しています。日本とシンガポールも、本年、両国関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げしました。
- 戦略的な関係を築き上げるためには、パートナー国との重層的な信頼関係が不可欠です。本日のシンポジウムに参加し、このシンポジウムが、両国の信頼関係を醸成する上で大きな役割を果たしていることを強く感じました。
- 2点目は、現下の厳しい国際情勢を踏まえると、地域の平和と安定、繁栄のためには、各国が「自律性」と「強靱性」を身につけることが必要であるということです。それらを通じて「共に、強く豊かになる」ことを掲げたのが、我が国が提唱する「進化したFOIP」です。日本とシンガポールには、そのために協力できる大きなポテンシャルがあります。

- 例えば、両国は、1994 年以来、JSPP21（ジェイ・エス・ピー・ピー21）というプログラムを通じて、主に ASEAN 諸国を中心とする第三国に対して、共同で技術協力を行っています。これまでに約 8,000 人の方々がプログラムに参加しました。先月は、「デジタル経済：AI ツール・ガバナンス・政策」をテーマとした研修が日本で行われました。
- 基本的な原則や価値を共有する日本とシンガポールだからこそできるこのような協力が、多層的、多角的に協議、実施されています。本シンポジウムもその一つです。
- 今後とも、これまで両国が築き上げてきた重層的な信頼関係を基盤に、新たに立ち上がった「戦略的パートナーシップ」の下での協力を進め、インド太平洋地域全体が、「共に、強く豊かになる」姿を目指していきたいと思います。
- 皆様の二日間の熱のこもった議論に改めて感謝申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

（了）